

# 情報連絡員総括表（2022年11月）

## － 静岡県中小企業団体中央会 －

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 中央会・行政への要望
5. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

### ・ 本調査の見方 ・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0(=横ばい)で推移  
 ※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

## 1. 概況報告 (回答者数 57 名 : 回収率 95.0%)

○2022年11月のDI値は、前月との比較において、「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」の3指標が改善。主要3指標である「売上高」「収益状況」「業界の景況」を含む6指標が悪化した。「売上高」は今年5月以降、前年比プラス（9月は横ばい）を維持しているが、「収益状況」「業界の景況」については、それぞれマイナス30ポイント前後の厳しい値が続いており、改善の動きはみられない。

コロナ感染症の影響が薄れはじめているものの、インフラコストや原材料価格の高騰が企業の収益を圧迫。また、人手不足、コロナ禍に膨らんだ融資の返済負担も今後不安視されている。

○「製造業」では、前月との比較において、「在庫数量」を除く7指標が改善した。生産量が増え稼働率も上がってきている状況が伺えるが、原材料や光熱費の高騰で収益の確保は依然厳しく、収益状況は前年比マイナス36.7ポイントとなっている。

水産食料品製造業からは、「設備の更新時期を迎えるが、コロナ禍、エネルギー高騰、資材の値上がりなど経営が苦しい時期にあり設備更新する体力はない」とコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「取引条件」を除く7指標が悪化した。ヒトやモノの動きは戻ってきているが、原材料や燃料コストの上昇に係る負担は大きく、商品の値上げによる顧客離れ、融資の返済や新たな借入増など資金繰りの悪化を心配する声があがっている。

道路貨物運送業からは「運賃引上げ交渉である程度の理解は得られるものの、実際の引き上げは厳しく、燃料高騰分等を補える状況ではない」とコメントが寄せられた。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2022年11月	8.8	2.3	33.4	-7.0	-29.9	-19.3	0.0	-14.0	-33.4
2022年10月	10.2	-6.8	35.6	-13.5	-28.9	-27.1	-10.0	-5.1	-30.5
増減	-1.4 ↓	9.1 ↓	-2.2 ↓	6.5 ↑	-1.0 ↓	7.8 ↑	10.0 ↑	-8.9 ↓	-2.9 ↓

## 2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値		増減		DI値		増減		DI値		増減	
売上高	2022年11月	13.3	20.0	ポイント	↑	3.7	-23.9	ポイント	↓	8.8	-1.4	ポイント	↓
	2022年10月	-6.7				27.6				10.2			
在庫数量	2022年11月	6.7	10.0	ポイント	↓	-7.1	7.2	ポイント	↓	2.3	9.1	ポイント	↓
	2022年10月	-3.3				-14.3				-6.8			
販売価格	2022年11月	33.4	10.1	ポイント	↑	33.3	-15.0	ポイント	↓	33.4	-2.2	ポイント	↓
	2022年10月	23.3				48.3				35.6			
取引条件	2022年11月	-13.3	6.7	ポイント	↑	0.0	6.9	ポイント	↑	-7.0	6.5	ポイント	↑
	2022年10月	-20.0				-6.9				-13.5			
収益状況	2022年11月	-36.7	10.0	ポイント	↑	-22.2	-11.8	ポイント	↓	-29.9	-1.0	ポイント	↓
	2022年10月	-46.7				-10.4				-28.9			
資金繰り	2022年11月	-20.0	16.6	ポイント	↑	-18.5	-1.2	ポイント	↓	-19.3	7.8	ポイント	↑
	2022年10月	-36.6				-17.3				-27.1			
設備操業度	2022年11月	0.0	10.0	ポイント	↑					0.0	10.0	ポイント	↑
	2022年10月	-10.0								-10.0			
雇用人員	2022年11月	-6.7	0.0	ポイント	-	-22.2	-18.8	ポイント	↓	-14.0	-8.9	ポイント	↓
	2022年10月	-6.7				-3.4				-5.1			
業界の景況	2022年11月	-30.0	13.3	ポイント	↑	-37.0	-19.8	ポイント	↓	-33.4	-2.9	ポイント	↓
	2022年10月	-43.3				-17.2				-30.5			

### 今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況				
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化			
製造業	食料品	2	1	0	2	2	0	1	0	0	2	0	2	0	1	0	1	0	2		
	繊維工業	2	0	0	1	3	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	1	1	1		
	木材・木製品	1	3	1	0	1	0	0	2	0	3	0	1	0	3	0	0	0	4		
	紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1		
	印刷	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	窯業・土石製品	0	1	1	0	3	0	1	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0		
	鉄鋼・金属工業	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1	1	0	0	0	2		
	一般機器	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	2		
	電気機器	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0		
	輸送用機器	2	2	2	0	1	1	0	1	1	2	1	1	2	0	0	1	2	1		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
非製造業	卸売業	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0								
	小売業	3	2	1	2	3	1	0	1	0	2	0	3					0	2	0	3
	商店街	1	2	1	1	4	1	0	1	0	2	0	2					0	2	0	3
	サービス業	1	0			0	0	0	0	1	0	1	0					0	1	1	0
	建設業	1	2			2	1	1	0	1	2	0	0					0	0	1	0
	運輸業	3	0			2	0	1	0	1	1	0	1					1	0	1	2

### 3.情報連絡員からの報告

#### 製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を扱う当業界としては、衛生管理、環境問題(フロン、アスベスト)等の法規制が強まる中、古い設備の更新時期を迎えるが、コロナ禍、エネルギー高騰、資材の値上がりなど経営が苦しい時期にあり設備更新する体力はない。衰退していく様相を呈している。</li> <li>・電力費・ガス代などインフラコストの高騰が収益に大打撃を与えている。得意先に値上げ交渉をし承諾を得ても、値上げ分を大幅に上回るインフラコストの高騰により赤字を解消できずにいる。</li> </ul>
パン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパー業界は従来大手製パン会社のパン販売を主としてきたが、各スーパーが独自性を出したり消費者ニーズに対応するため、地元の中小製パン会社のブランドパンを取扱うようになってきた。しかし、大量注文により売り上げは伸びるものの全体の利益率は低下している。</li> </ul>
織物業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注が前月同様少し増加したが、見込み生産の在庫がやっと消化出来たか？というところで、受注増は限定的である。他産地(関東圏)の織屋等の廃業に伴う正絹物の受注は、比較的安定的に入っている。全体の受注量の増加は見込めない中、多品種小ロット生産での受注を期待。</li> </ul>
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には多少の動きがあるものの継続的ではない。原材料や電気料金等の高騰によるコスト高が収益面での懸念事項である。</li> </ul>
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅着工需要が減退し、木製品の在庫がだぶつき始めた。ただ単価に関しては他資材の高止まりの影響か、値崩れには至っていない。木材製造業は微妙な市況状況にある。</li> </ul>
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コストアップにより収益は厳しい。</li> </ul>
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーコストの上昇、原材料価格の高騰により非常に厳しい状況である。</li> <li>・物価高・エネルギー費用の増加</li> </ul>
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料費等の上昇は止まらない、販売価格が多少上がっているが値上げ分をカバー出来ていない。仕事量も多少は増加しているが操業度100%には至っていない。</li> <li>・電気料が3~4割上昇し収益圧迫しており、既存の売電用太陽光発電装置に加え、急遽、新たに自家消費用太陽光発電装置の設置を計画する組合員が出ている。</li> </ul>
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型冷蔵庫は好調な販売が続いており、昨年を上回る生産が継続している。</li> <li>・家庭用エアコンは一部の部材の調達問題があるも、生産調整を強いられた昨年から大きく上回る生産となっている。給湯用機器も好調。</li> <li>・業務用エアコンは輸出の増加が続いている。</li> </ul>
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の組合員企業では、大手取引先がコロナ等で生産過剰な状態になり、製品在庫の調整により受注量が減少している。</li> <li>・昨年と比較して生産量も増加し稼働率も上がってきているが、原材料や副資材及び光熱費の値上がりで収益は厳しい状況が続いている。また、人手の確保が難しくなってきた。</li> <li>・コロナ感染症の影響も地域中小製造業では次第に薄れてきている。今後新種変異株が幾分か発生しても、操業に影響は少なくなっていくものと思っている。</li> <li>・原材料価格の高騰で収益状況が悪化している。</li> <li>・自動車業界に於いて電子部品の供給が追いついていない状況であり、カーメーカーの生産調整が発生した。12月においても生産調整実施の予定が出ている。</li> </ul>

#### 非製造業

セメント卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の出荷は前年同月比2割程度の大幅な減少。2か月ぶりに前年実績を下回り、先行き不透明である。</li> </ul>
鮮魚小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人流が活発になり売上が回復するも、原材料価格および光熱費等の値上げによる影響で悪化判断となった。今後は消費の落ち込みが進むと思われる。</li> </ul>
野菜・果実小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青果物は全体的に若干の高価格で推移した。新型コロナウイルス第8波の影響はまだ大きくは感じられない。</li> </ul>

各種商品小売業	<p>・3年間、年末に感染拡大予防のため個店への来客が減り(特に飲食店)キャンセルされる状態。対策しても、毎年同じ状態である。陽性者数を追えば切りがなく、来年も同じだと思う。いつまでこの状態が続くのだろう。</p>
	<p>・材料費の高騰などで、衣料品や食料品、飲食店舗で値段が上がっている。11月には大道芸が開催され、賑わいは創出されたが売上げの拡大にはつながらなかった。「お街ゼミな〜る」は参加店舗はコロナ前より少なかったが、参加した方には専門店の魅力を愉しんでいただくことができた。商店街のファンの増加に繋げていきたい。</p>
	<p>・ファッション業種以外は、昨年に比べ大分売上げが回復してきている。</p>
宿泊業	<p>・昨年11月は「今こそ静岡元気旅キャンペーン」が実施され、概ね順調な状況であった。本年は静岡元気旅に代わって国による全国旅行支援が実施されたため、昨年同様、好調に推移した。しかしながら、多くの宿泊施設で深刻な人手不足の状態となっており、予約があっても全客室を稼働することが困難な状況も見られ、早急な人手不足の対策が求められる。</p>
総合工事業	<p>・仕事量は増えているが、職人不足により工事が順調に進まなくなっている。材料費・人件費ともに値上り傾向である。</p>
	<p>・現状の鋼材単価が反映されていない物件がある中、利益を出していくのが難しい状況は変わらない。また、年明けから年度末にかけて県内物件の動きが鈍い感じがする。物件数が少なくなった時の単価が心配。</p>
道路貨物運送業	<p>・11月の荷動きは昨年を上回る状況であったが、全体的に車両情報は少なかった。特に関西方面から静岡方面への荷物が少なく、県内に来る車両も減少した。通常、月末は繁忙となるが、荷物・車両とも期待できる状況ではなかった。年末に向け、荷動きの増加が期待される。また、運賃引上げ交渉である程度の理解は得られるものの、実際の引き上げ状況は厳しく、燃料高騰分等を補える状況ではない。</p>
	<p>・売上は前年並みに回復してきたが、自動車メーカーが納車に時間がかかると同様に、トラックも納車まで一年以上かかる場合もある。トラックの老朽化・代替えなどを考慮して配車等しなければならない。必然的に生産性の高い運送、荷主を選ぶことになってしまう。</p>
	<p>・コロナ禍も3年になり、だいぶ経済の動きは戻ってきているが燃料価格が下がらず、業界内では資金繰りが大変な中小企業も多くある。コロナに対する制度融資の返済が迫ってきている中で、キャッシュが必要な企業は借入が増える可能性が大いにある。</p>
道路旅客運送業	<p>・10月の前年同期との運送収入の比較では13ポイント上昇し、コロナ禍以降初めて80%近くまで回復した。ただし地域によっては64%までしか戻っていないところもあり、回復傾向にはあるものの状況にバラつきが見られる。一方、経営体力がまだ十分に回復していないことから、引き続き物価高騰対策、旅行や買物の需要喚起策と共に、多額に膨らんだ融資の返済時期が迫ってきていることから、返済期限の延長や条件が悪くならないような借り換えなど、金融支援策の投入をお願いしたい。</p>

## 4.中央会・行政への要望

### 道路旅客運送業

- ・物価高騰対策、旅行や買物の需要喚起策と共に、多額に膨らんだ融資の返済時期が迫ってきていることから、返済期限の延長や条件が悪くならないような借り換えなど、金融支援策の投入をお願いしたい。

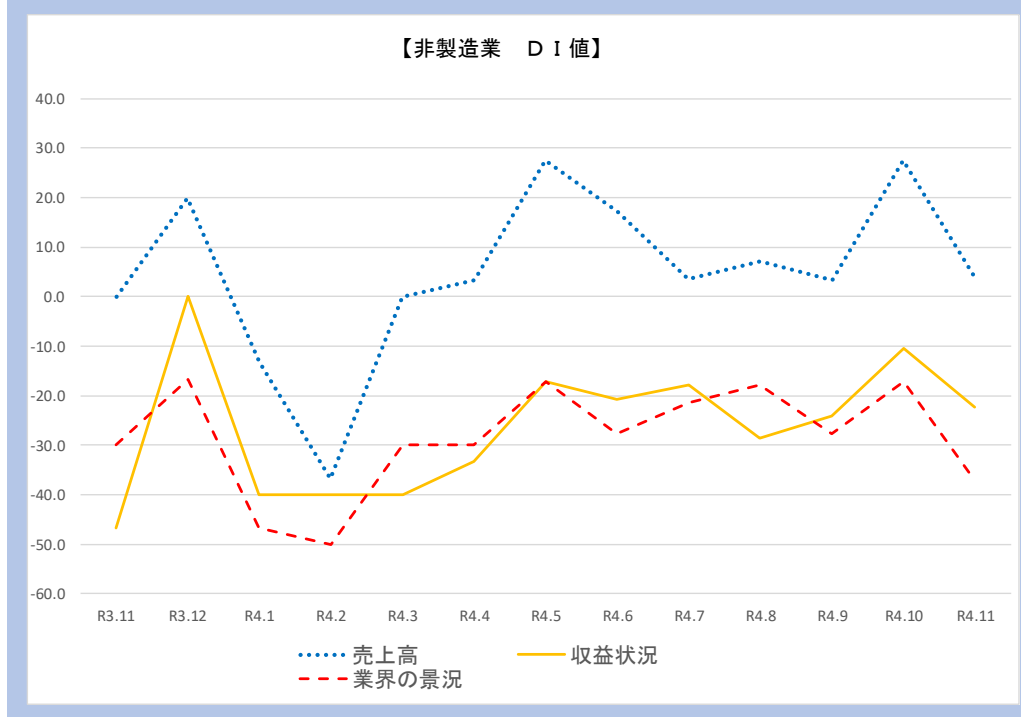
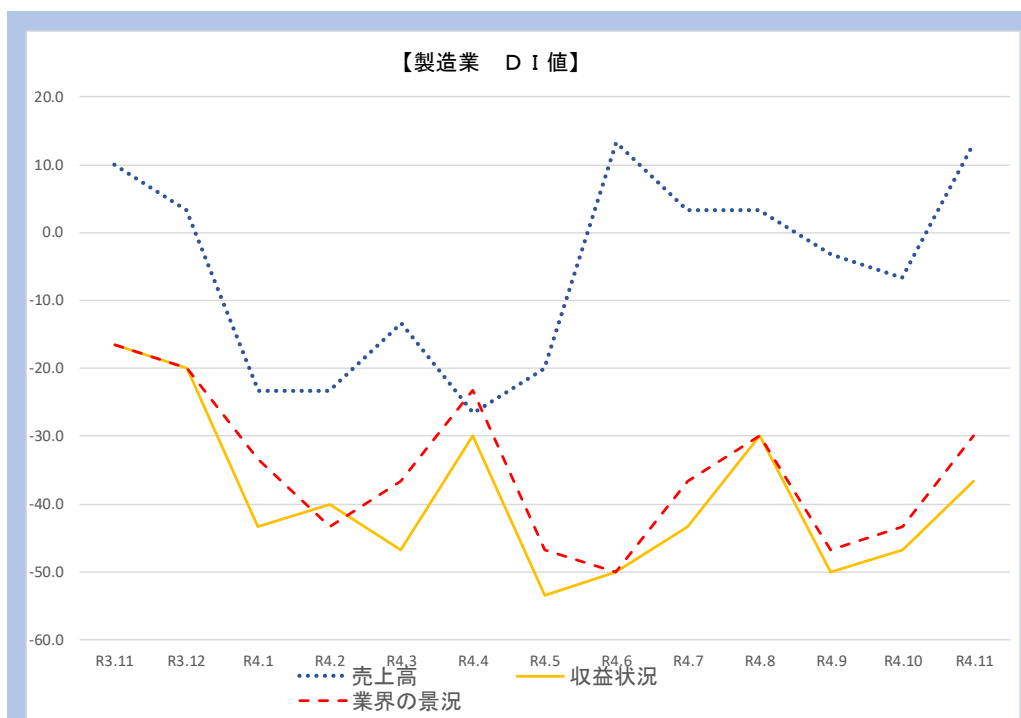
## 5.主要三指標における DI 値の推移

■2021年11月期～2022年11月期までの推移

全体	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
売上高	5.0	11.7	-18.3	-30.0	-6.6	-11.7	3.4	15.3	3.5	5.2	0.0	10.2	8.8
収益状況	-31.7	-10.0	-41.7	-40.0	-43.3	-31.7	-35.6	-35.5	-31.0	-29.3	-37.2	-28.9	-29.9
業界の景況	-23.4	-18.4	-40.0	-46.6	-33.4	-26.7	-32.2	-39.0	-29.3	-24.1	-37.3	-30.5	-33.4

製造業	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
売上高	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3
収益状況	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7
業界の景況	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0

非製造業	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
売上高	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7
収益状況	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2
業界の景況	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0



■ 2021年11月期～2022年11月期までの推移

売上高	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
製造業	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3
非製造業	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7

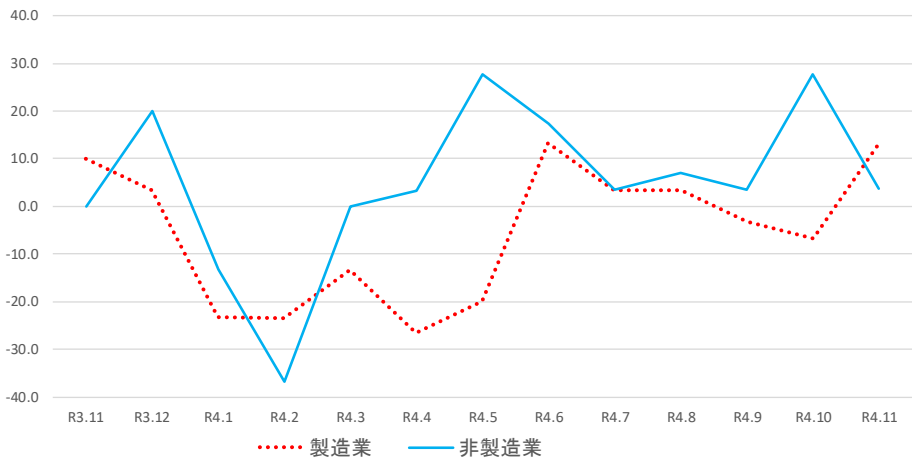
  

収益状況	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
製造業	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7
非製造業	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2

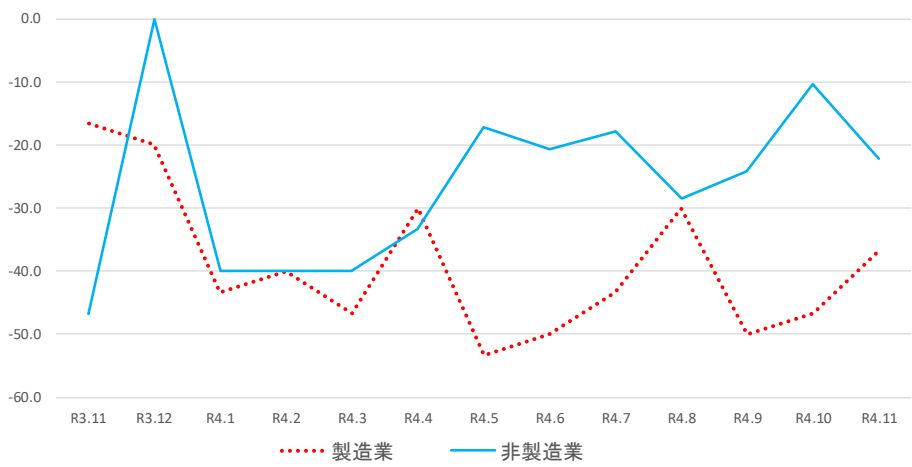
  

業界の景況	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11
製造業	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0
非製造業	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

